第２学年Ｂ組 生活科学習指導案

授　業　者　　丹　　理人
研究協力者　　中野　良樹
教材分析協力者　長瀬　達也

1　単元名　おいしいお米つくりたい part３～きらきら収穫祭を開こう～

2　子どもと単元

(1)　子どもについて

「おいしいお米つくりたい part１」において、子どもは種籾から米の苗を発芽させたり、遊びを取り入れた代かきを考えて田んぼを滑らかにしたりする活動を通して、自分たちの育てる米への愛情を深めてきた。このことにより単元の最後に田植えを行った際には、一束一束大切に苗を植える子どもの姿が多く見られた。また、「おいしいお米つくりたい part２」では、日々の稲の観察を続ける中で見いだした多様な思いや願いから、田んぼの水の管理やネットの設置、田んぼに関するポスターの作成と全校への配付といった活動が生まれ、このことが米とのよりよい関わりにつながった。さらに、夏休み前に行った「うごくうごく！おもちゃまつり」の学習では、一人一人がおもちゃ作りや遊びを発展させていくとともに、「祭り」としての盛り上がりを考える中で、それぞれが作ったおもちゃをコラボレーションさせながら一つのパフォーマンスを創り出し、協働的な学びの中で気付きの質を高めてきた。

多様な思いや願いをもち、豊かに表現する子どもが多数いる一方で、自身のもっている思いを表現することに苦手意識のある子どもや、試行錯誤を繰り返し活動をよりよくする意欲が低い子どもも見られる。このような実態を踏まえ本単元では、米への愛情や、栽培を支えてくれた人々への思いを基に、様々な形の遊びや催しを作ること、さらには友達と意見を交わしながらよりよい収穫祭にしようする姿を期待する。

(2)　単元について

本単元における子どもが「学びのものさし」を働かせる姿を、米作りを通してもった思いや願いを、表現方法やメンバー、活動場所などについて選択・決定しながら祭りとして表現する姿と捉える。

本単元は、穂が実ってきた稲の姿やこれまでの活動の様子などを通して、様々な視点から米作りを振り返るところから学習が始まる。春からの栽培活動の中で、子どもは米との関わりを充実させたり、様々な人と関わり合ったりしながら、多様な気付きを得てきた。これまでの活動を振り返りながら一人一人の気付きが関連付けることによって気付きの質が高まり、収穫を祝う祭りを創ろうという子どもの思いや願いが強くなるであろう。また、遊びや催しを作る活動に入る前には、収穫のためにできることを考え、米の世話をする時間を設ける。このことによって、実ってきた稲穂との関わりが充実し、その中で得られる気付きを基にした様々な遊びや催しが生まれ、思いや願いに応じた豊かな祭りが創られると期待される。さらに、個人で遊びや催しを作っていく中で、新たな視点を得ることによって「みんなの祭りをよりよくしよう」という意識を持続することができるように、振り返る場を適宜設ける。一人一人が充実させた遊びや催しをコラボレーションしながら祭りを創り上げることにより、子どもの気付きの質が高まり、豊かな表現が生まれることが期待される。

これらを踏まえ、**育ててきた米の収穫を祝う祭りを創る活動を通して、友達と遊ぶよさを実感しながら、生命の尊さや人との関わりについて考え、表現する**という資質・能力を高めることを目指し、学びをデザインしていく。

(3)　指導について

研究の重点の一つ目との関連から、まず、これまでに米と関わってきた機会が大切なものであったと捉え直し、更に米の世話を継続することで実感の伴った気付きを積み重ね、思いや願いを高められるようにする。その上で、一人一人が思いや願いに応じて遊びや催しをつくるという「非同期的な学び」と、一人一人がつくった遊びや催しを生かして、学級全体としての祭りを発展させていくという「同期的な学び」を繰り返していくことができるように、個で得た豊かな気付きを全体の学びに生かせる単元構成にする。また、お互いの活動から気付きを関連付け、学びを発展させていくことができるように活動の足跡を可視化する。

研究の重点の二つ目との関連から、振り返りに相互評価の視点を取り入れることで、米への感謝や収穫の喜びを祭りで表現しようという思いや願いが更新され、対象への働きかけがよりよくなるようにする。相互評価の際には協働学習用の ICT ツールを用いたり、写真掲示に書き込んだりしながら、自分のスタイルに合わせて学び合えるように場の設定を工夫する。

3　単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) 育ててきた米の収穫を祝う祭りを創る活動を通して、植物には生命があり成長していることや、友達と祭りを創ることの楽しさに気付く。〈ｷ-４、ｹ-１〉

(2) 育ててきた米の収穫を祝う祭りを創る活動を通して、植物への働きかけを見直したり、祭りをよりよくするための工夫をしたりすることができる。〈ｷ-１、ｹ-２〉

(3) 育ててきた米の収穫を祝う祭りを創る活動を通して、植物に親しみをもって大切にしようとしたり、みんなと楽しみながら祭りを創り出そうとしたりする。〈a-２〉

4　単元の構想（総時数 18 時間）

おいしいお米つくりたい part１・２

米の苗を植えたり植えた苗を観察したりする活動を通して、米に対する愛情を深め、関わりをよりよくできるように工夫する。

本単元

時間	学習活動 （・は予想される子どもの姿）	教師の主な支援	評価 （本校の資質・能力との関連）
1 2	(1) 田んぼの稲の観察をして、これまでの米との関わりを振り返り、気付きを共有する。 ・夏休みの間に穂が出たね。 ・暑い間もお米は頑張って育った。 ・皆で楽しく食べるために、お世話を続けたい。	・米へのかかわりを想起できるように、写真でこれまでの活動を振り返りながら、今後の活動について問う。 ・思いや願いを更新できるように、一人一人の気付きを関連付ける場を設ける。	・植物の生命や成長に気付いている。　<キ- 4>
3 4 5	(2) 収穫に向けて米の世話の方法を考え、実施する。 ・すずめが集まっていたからかかしや網で対策しよう。 ・雑草がたくさん生えているから抜こう。	・協働して世話をする中で米への思いを強くできるように、グループ編成を工夫する。	・米を守るためにはどのような方法がよいか考えている。　<キ-1>
6	(3) 収穫祭の計画を立てる。 ・祭りを開き、育ててきた米を楽しく食べたい。 ・感謝を伝える踊りがしたい。 ・収穫の嬉しさを歌にしたい。	・収穫を祝う多様な遊びや催しが生まれるように、これまでの米との関わりを振り返る場を設定する。	・みんなで喜びを分かち合いたいという気持ちをもって、収穫祭を計画している。　<a-2>
7 8 9 10 11	(4) 収穫祭に向けて準備を進める。 ・○○さんも踊りを考えているんだ。一緒に考えようよ！ ・代かきを体験できる屋台を開こう。 ・米作りの方法が分かるオブジェを作りたい。	・試行錯誤して祭りをよりよくできるように、試し遊びと準備を自由に繰り返すよう声掛けをする。 ・友達とつながりながら新たな催しが生み出されるよう、グループ分けや場などを委ね、活動の様子を見取る。	・思いや願いを生かして、祭りをよりよくしようと、工夫している。　<ケ-2>
12 **本時**	(5) 学級でお試しの収穫祭を行い、振り返る。 ・袋に新聞紙を入れて敷いたら代かき体験がもっと楽しくなりそう。 ・それぞれのお祭りは楽しかったけれど、全体で盛り上がるには？	・友達の作った遊びや催しを体験しながら新たな気付きを得て、思いや願いを更新できるように、相互評価を取り入れた振り返りの場を設定する。	・収穫への気持ちを高めたり、植物の生命の尊さに気付いたりしている。 <キ- 4 >
13 14	(6) 試しの収穫祭の振り返りを生かして、祭りをよりよくしていく。 ・踊りと歌で一緒にパフォーマンスを考えよう！ ・もっと米への思いが伝わる屋台にしていきたい。	・思いや願いがより表現された祭りとなるよう、なぜそのように手直ししたのか問い掛け、工夫を価値付けていく。	・祭りをよりよくするために、これまでの活動を見直し、工夫している。<ケ- 2>
15 16	(7) 専門家の方から方法を聞き、稲刈りをする。 ・たくさん実って嬉しい。 ・安全に気を付けて稲刈りをしよう。 ・農家の方に様々なことを教えてもらったな。	・育ってきた米や、栽培を支えてくれた人への思いを強くすることができるように、事前指導の充実を図る。	・米の成長や、稲の刈り方の工夫に気付いている。 <キ- 4、ケ- 1 >

17	(8)「きらきら収穫祭」本番を行い、気付いたことを表現する。 ・頑張って育ててきてよかった。 ・おいしく食べるのが更に楽しみになったよ。	・活動から豊かな気付きが生まれるように、祭りを楽しむ時間を保障する。	・収穫祭を通して、植物の生命や周りの人への感謝について考えている。<キ- 4>
18	(9) 単元の学習を振り返る。 ・これからお米を大事にしていきたい。 ・農家の方に感謝して食べたい。	・自身の成長にも気付くことができるよう、子ども同士で頑張りを認め合ったり、教師から価値付けたりする場を設ける。	・栽培や祭りで得た気付きを生かし、今後の植物への関わりを見通している。<キ-1>

◎本単元で育む主な資質・能力

育ててきた米の収穫を祝う祭りを創る活動を通して、友達と遊ぶよさを実感しながら、生命の尊さや人との関わりについて考え、表現する。(キ- 4 、ケ- 1 、キ- 1 、ケ- 2)

ふゆのすてきみつけたい～２Ｂスノータウン～

冬にちなんだ遊びに友達と一緒に取り組むことを通して、自然の不思議さや面白さについて考え、表現する。

5　本時の実際(12／14)

（1）ねらい　遊びや催しに込められた思いに着目して、お試しの収穫祭を楽しむ活動を通して、収穫への気持ちを高め、植物の生命の尊さに気付くことができる。　<キ－4>

（2）展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援　評　価
3分	①　前時までの学習を振り返り、めあてを確認する。 めあて みんなでおためし「きらきらしゅうかくさい」を楽しもう。	・本時の活動への期待を高められるように、これまでの活動を振り返ることができる写真や資料を掲示しておく。
35分	②　友達が遊びや催しにどんな思いを込めているのかに着目しながら、プレ「きらきら収穫祭」を楽しむ。 〈予想される子どもの反応〉 【友達と祭りを楽しめない。】 ・自分が祭りで使う道具を修理するために祭りに参加できない。 ・踊ったり演奏したりするのは苦手だから参加したくないな。 【祭りを楽しむ中で、収穫に向けて気持ちが高まっている。】 ・お米を食べるのが更に楽しみになった。 ・収穫に向けてもっとお世話を工夫しよう。 【祭りを楽しむ中で、植物の生命の尊さに気付いている。】 ・(田んぼのオブジェを見て)小さい種籾がこんなに大きな稲になるなんて、頑張ったんだな。 ・(踊りながら)収穫の喜びを表現するために大きく体を動かそう！ ・米への感謝を込めて、本番の収穫祭をもっと盛り上げよう。	・祭りに参加する中で、豊かな気付きが得られるよう、遊びがつながっていくような場にしたり、子どもの意見を生かしてルールや時間を設定したりする。 ・安心して祭りに参加できるように、祭りの始めに準備や手直しの時間を設定する。 ・収穫に向けて気持ちを高めることができるように、今後の活動の見通しがもてるような掲示の工夫をする。 ○収穫への気持ちを高め、植物の生命の尊さに気付けるよう、問い掛けたり、価値付ける言葉掛けをしたりする。 収穫に向けて更に世話を工夫しようという気持ちや、お米のこれまでの成長に対して感謝する思いをもち、遊びや催し、言葉で表現している。 <キ－4>（発言・行動観察）
7分	③　本時を振り返り、これからの活動への見通しをもつ。 ・代かき体験のイベントに参加して、稲が小さかった時のことを思い出したよ。大きく育ってくれて嬉しいな。 ・丁寧に稲刈りをして、更に楽しいお祭りにしたい。 ・本番では他のグループとコラボレーションしてもっと楽しくしよう。 ・こんなに楽しいお祭りを開催できたなんて２Ｂはすごいね。	○祭りの世界に浸った中で気付きを表現できるように、遊びの場の中でのインタビュー方式での振り返りをする。 ○今後の学習につながる協働的な省察となるよう、相互評価の視点(遊びからどんな思いが伝わってきたか・作品を見てどんなことに気付いたか)をもった振り返りを促す。 ・自身の成長や変容に気付くことができるように、活動の様子を取り上げて価値付ける。

令和６年度　生活科実践・研究計画

部　員	○丹　理人、渡部　和朝

研究テーマ
思いや願いをもって対象へ働きかけ、実感を伴いながら気付きの質を高めていく子どもを育む学び

1　研究テーマについて

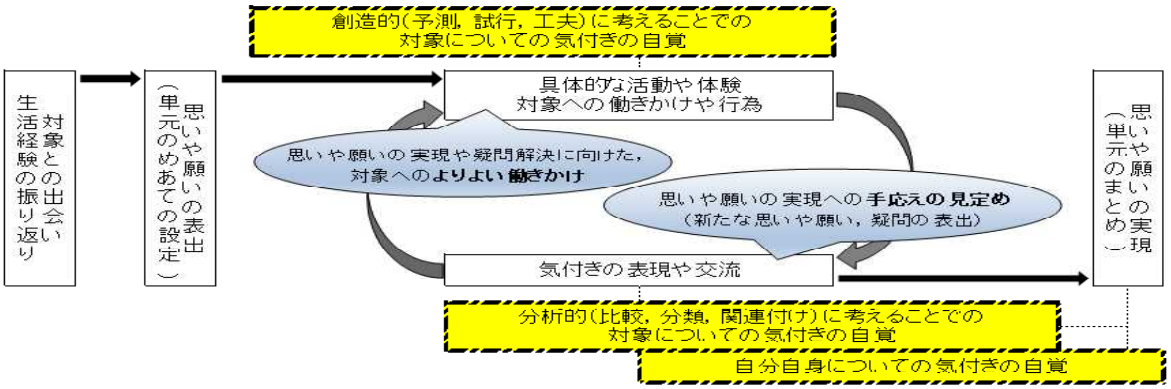
昨年度までの実践で子どもたちは、自らの思いや願いをもちながら活動し、その実現に向けて、対象への働きかけをよりよくしながら多くの気付きを得てきた。しかしながら、これまでの「学びのものさし」を意識するあまり、活動に没頭することで得られる気付きが十分とは言えず、実感を伴いながら気付きの質を高めていく点については課題が残った。そのため、よりよい働きかけをしたという手応えや自分自身の成長の実感が生まれていないというのが現状である。

こうした現状を踏まえ、今年度は、体験活動と表現活動を相互に繰り返しながら、子どもが新たなことに気付いたり、自分の気付きを捉え直したりすることができるように学習を進めていくことで、実感を伴った気付きを促す。

そのためにはまず、子どもの思いが存分に生かされ、経験を積み重ねることで発展していくような活動を設定する。活動の中では、教師が子どもに行動の背景や工夫の理由を尋ねたり、活動の振り返りを促したりしながら、気付きを自覚化できるようにする。また、子ども同士で学び合う場面を設定し、互いの気付きを比べながら、相違や新たなことに気付くことができるようにする。さらに、他者からの価値付けにより、自分の成長や可能性などの気付きを得られるようにする。

本校生活科で育みたい力は､対象への働きかけと得られる反応や結果の関係を自覚し、働きかけをよりよいものへと更新していく力である。そこで、働きかけを更新しながら得られる実感の伴った気付きを生かし、思いや願いの実現を目指す姿を期待し、「思いや願いをもって対象への働きかけ、実感を伴いながら気付きの質を高めていく子どもを育む学び」の研究テーマで実践を積み重ねていく。

生活科で目指す自律した子どもの姿
- 分析的（比較、分類、関連付け）に考えることで、働きかけて得た手応えや抱いた思いや願いを自覚し、実現への手応えを見定める姿
- 手応えを基に、創造的（予測、試行、工夫）に考えることで、働きかけと対象の反応や結果との関係を自覚し、対象への働きかけをよりよいものへと更新していく姿



図：生活科　自律した学習者を育てる学習のプロセス

2　研究の重点＜○は具体的な取組の例＞

対象への働きかけをよりよいものへと更新し、気付きの質を高めるための手立て
○実感の伴った気付きがもてるように、子どもの思いを生かし、経験を積み重ねることで発展していく単元構成について工夫する。
○思いや願いを更新することでよりよい働きかけが生まれるように、教師の関わりや子ども同士の学び合いの支援を工夫する。

令和6年度 「生活科の資質・能力」表

※□は，資質・能力の取り扱い学年，■は，定着学年を示す。

内容			学習指導要領との関連内容	1年	2年
生活科の学びに向かう力，人間性等	a1	学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して，地域に愛着をもち自然を大切にしたり，集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。	全般	■	■
	a2	身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して，自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。	全般	■	■
	a3	自分自身を見つめることを通して，意欲と自信をもって生活するようにする。	全般	■	■

内容構成の具体的な視点	健康で安全な生活	ア1	健康に気を付けて，規則正しく生活ができる。	(1)学校と生活 (2)家庭と生活	学校、家庭及び地域の生活に関する内容	■	■
		ア2	安全に気を付けて，楽しく安心して遊びや生活ができる。	(1)学校と生活 (3)地域と生活		■	■
		ア3	安全な登下校ができる。	(1)学校と生活		■	■
		ア4	通学路の様子やその安全を守っている人々に気付くことができる。	(1)学校と生活		■	■
	身近な人々との接し方	イ1	学校生活を支えている人々や友達に気付くことができる。	(1)学校と生活		■	■
		イ2	家庭での生活は互いに支え合っていることに気付き，自分の役割を果たすことができる。	(2)家庭と生活		■	■
		イ3	地域で生活したり働いたりしている人々と適切に接することができる。	(3)地域と生活		□	■
	地域への愛着	ウ1	自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることに気付くことができる。	(3)地域と生活		□	■
		ウ2	地域の人々や場所に親しみや愛着をもち，適切に接したり安全に生活したりすることができる。	(3)地域と生活		□	■
	公共の意識とマナー	エ1	公共物や公共施設のよさを感じたり働きを捉えたりすることができる。	(4)公共物や公共施設の利用	身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	■	■
		エ2	身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる。	(4)公共物や公共施設の利用		■	■
		エ3	みんなで使うものや場所，施設を大切に正しく利用できる。	(4)公共物や公共施設の利用		□	■
	生産と消費	オ1	身近にある物を利用して作ったり，繰り返し大切に使ったりすることができる。	(6)自然や物を使った遊び		■	■
		オ2	必要なものを自分で計画的に買ったり，用件を正しく伝えて買い物などをしたりすることができる。				□
	情報と交流	カ1	相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりし，様々な手段を適切に使って直接的間接的に情報を伝え合うことができる。	(8)生活や出来事の伝え合い		■	■
		カ2	身近な人々と関わることのよさや楽しさに気付き，身近な人々と関わったり交流したりすることができる。	(8)生活や出来事の伝え合い		■	■
	身近な自然との触れ合い	キ1	動物を飼ったり植物を育てたりして，生き物への親しみをもち，大切にすることができる。	(7)動植物の飼育・栽培		■	■
		キ2	身近な自然(草花，樹木，水，氷，雨，雪，風など)を観察し，それらの違いや特徴を見付けることができる。	(5)季節の変化と生活 (6)自然や物を使った遊び (7)動植物の飼育・栽培		■	■
		キ3	自然の面白さや自然の不思議さに気付くことができる。	(5)季節の変化と生活 (6)自然や物を使った遊び (7)動植物の飼育・栽培		□	■
		キ4	動物や植物の育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち，動植物は生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。	(7)動植物の飼育・栽培		□	■
	時間と季節	ク1	四季の変化，季節によって生活の様子が変わることに気付くことができる。	(5)季節の変化と生活		■	■
		ク2	一日の生活時間や季節の移り変わりを生かして，生活を工夫したり楽しくしたりすることができる。	(5)季節の変化と生活		□	■

	遊びの工夫	ケ1	身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして，遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができる。	(6)自然や物を使った遊び		□	■
		ケ2	自分と友達などとのつながりを大切にしながら，遊びを創り出し，みんなと楽しく過ごすことができる。	(6)自然や物を使った遊び		□	■
	成長への喜び	コ1	自分が大きくなったこと，自分でできるようになったこと，生活での自分の役割が増えたことに気付くことができる。	(9)自分の成長	自分自身の生活や成長に関する内容	■	■
		コ2	自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつことができる。	(9)自分の成長		□	■
		コ3	自分の成長を喜び，これからの成長への願いをもって，意欲的に生活しようとすることができる。	(9)自分の成長		■	■
	基本的な生活習慣や生活技能	サ1	生活のリズムを整え，時間を守ることができる。	全般		■	■
		サ2	道具や用具の準備，片付け，整理整頓ができる。	全般		■	■
		サ3	ルールやマナーを守ったり，適切な挨拶や言葉遣いをしたりすることができる。	全般		■	■
		サ4	訪問や依頼の仕方を知ったり，電話や手紙などを使って連絡したりすることができる。	全般		□	■

生活科の学びを深める「見方・考え方」

b1　自分の知識や経験をもとに，会いたい人，行きたい場所，してみたいことなどに着目して，自分の思いや願い，関心や疑問をもつ。

b2　身近な人々，社会及び自然などの対象に，見る，聞く，触れる，作る，探す，育てる，遊ぶなどして直接働きかける。

b3　試す，見通す，工夫するなどの活動により，試行したり，予測したり，工夫したりなどして創造的に気付きを得て考える。

b4　見付ける，比べる，たとえるなどの活動により，気付きを比較したり，分類したり，関連付けたりするなどして分析的に考える。

b5　気付きや考えなどについて，言葉，絵，動作，劇化などの方法によって，他者と伝え合ったり，振り返ったりする。

b6　身近な人々，社会及び自然などの対象と自分がどのように関わっているのかに着目し，自分自身や自分の生活について考え表現する。